

第8回講義 (20160617)

§6 New Relativism

1 新相対主義とは何か

2 Kaplan 'Demonstratives'

3 Kaplan の使用の文脈と値踏みの状況の区別による文脈主義と相対主義の区別

4 知の相対主義について

Nozick, R., *Philosophical Explanation*, Harvard UP, 1981

MacFarlane, *Assessment Sensitivity*, Oxford UP. 2014

Putnam, H., *Reason, Truth, History*, Cambridge UP. 1981 (パトナム『理性・真理・歴史』野本他訳、法政大学出版会)

神山和好『懐疑と確実性』春秋社、2015

入江講義ノート 2002ws08-12

1 懐疑論的論証

・水槽脳 (Brain in Vat, BIV)

あるマッドサイエンティストが、ある人が寝ている間に、その人の脳を身体から切り離し、培養液の入った水槽にいれ、その脳の神経細胞をコンピュータにワイヤーでつなぐ。コンピュータは、脳が通常受け取るのとまったく同じ電気信号を脳に送るようにする。すると、目覚めた彼女は、自分が生身の人間なのか、それとも培養槽の中の脳であるのか識別できない。

・閉包原理 (Closure Principle) (神山 180ff.)

「知識の論理的帰結は、帰結関係が知られている場合、すべての知識であるとする原則」(神山 180)

$(x) (y) (Kx \ \& \ K(x \rightarrow y)) \rightarrow Ky$

・懐疑論的論証(skeptical argument) (神山 82)

- (1) 私は、自分が BIV でないことを知らない。
- (2) もし私が自分が BIV でないことを知らなければ、私は自分に手があることを知らない。
- (3) 私は自分に手があることを知らない。

上記(2) は、次の閉包原理を使って論証できる。

- (4)私は、私に手があることを知っている。
- (5)私は、もし私に手があれば、私は BIV ではないことを知っている。
- (6)私は、私が BIV ではないことを知っている。

ゆえに、(4)→(6)、ゆえに、その対偶  $\sim(6) \rightarrow \sim(4)$  が成り立つ。これが上記(2)である

ここでの選択肢は、とりあえず、4つである。

- # 1 この懐疑論的論証を認めて、懐疑主義をとる。
- # 2 閉包原理を認めかつ (4) を認めて、それゆえに、(6)をみとめるか (独断論)

### # 3 閉包原理を否定する。

# 4 閉包原理を認め、かつ(4)と(6)をともに認める場合と、~(4)と~(6)をともに認める場合との両方を認める。つまり「知る」の意味を多義的に理解する。これには、いくつかの立場が考えられる。知識帰属の文脈主義、主体感受性不変主義、相対主義、などである。

# 1-3は、知識帰属の不変主義 (invariantism) (「知る」の意味は文脈によって変化しないとする立場) をとる。

## 2 「知る」の文脈主義

### (1) 事例

ジョンは「ポケットにいくらありますか」と問われたとき、朝食のおつり 2 ドルをポケットに入れたことを思い出して、「2 ドルあります」と答える。「あなたは、ポケットに 2 ドル持っていることを知っていますか」と問われたら、「わたしは、知っています」と答えるだろう。

ところで、ここで「あなたは、スリにあって気づかない可能性がありますか。もしそうなら、あなたは朝食を食べた後、スリにあった可能性があるのではないですか」と問われて、ジョンは、「その通りです」と答えたとしよう。このとき、もう一度「あなたは、ポケットに 2 ドル持っていることを知っていますか」と問われたら、彼は、「わたしは、知っていません」と答えるかもしれない。もしこのように答えとすると、そのとき「知っている」や「知らない」の意味は、前の時とは異なる意味で発話されている。

(ところでこのときこの会話を聞いていた第三者は、「ジョンは、ポケットに 2 ドル持っていることを知っている」といえるだろうか。ジョンと同じように、「知っている」の意味を変えて使いそうだ。)

ところで、ジョンがポケットをチェックして、2 ドルあることを確認したとしよう。しかし「あなたは、それが偽札でないことを判定できますか」と問われると、ジョンは「私には判定できません」と答える。ここでまた、「あなたは、ポケットに 2 ドル持っていることを知っていますか」と問われたら、ジョンは、「わたしは、知っていません」と答えるかもしれない。もしこのように答えとすると、この場合にも、「知っている」や「知らない」の意味は、最初の時とは異なる意味で発話されている。

(ところで、このときこれを見ていた第三者が、ジョンの持っている紙幣が本物だと知っているとしよう。このとき、彼女は「ジョンは、ポケットに 2 ドル持っていることを知っている」というだろうか。それとも、「知らない」というだろうか。)

**Contextualist semantics for “knows.”**  $[[\text{“knows”}]_{\langle w, t, a \rangle}^c = \{ \langle x, y \rangle \mid y \text{ is true at the circumstance } \langle w, t \rangle \ \& \ x \text{ believes } y \text{ at } \langle w, t \rangle \ \& \ x \text{ can rule out all the alternatives to } y \text{ that are relevant at } c \}.$